

次に、農業活動による代表的な風景と近年の環境保護活動による景観を例示する。

【源流部に位置するほ場(三木市吉川町湯谷)】

約30年前に刊行された「『米をつくる』農林水産業はすてきな仕事1」には、全国の6つの稲作のうちの1つとして認定地域の山田錦生産者が掲載されており、ほ場整備前の棚田で収穫時期に倒れる直前まで登熟させた「山田錦」の写真を見ることができる。撮影方向は南から北で、写真中央、右手奥や写っていない撮影場所の南側にもため池がある。



写真 27 30 年前の栽培の様子を伝える、冊子『米をつくる』の紙面

当時は地形を生かして開墾された極めて不整形な棚田で生産が行われていた。
現在は地形改変はされたものの、地形に応じた形状でため池が残され、当時と変わらず土地に合わせて水や肥料を加減する手法での耕作が続いている。
また、地形上の制約で機械が刈れない部分を、女性（奥さん）が手刈りする写真もあるが、このような共同作業は田植え時の作業を含め現在まで続いている。



写真 29 平成 8 年と平成 21 年の比較



写真 28 現在の状況（令和 6 年 4 月撮影）

【田園地帯に点在する茅葺民家とほ場(三木市吉川町豊岡)】

豊岡地区は、三木市の東部、旧吉川町と神戸市北区が接する場所に位置する。神戸市との境界部分にあたる丘陵とそこから枝分かれした尾根に挟まれ、緩やかに傾斜する段状の農地が広がる田園地帯である。

茅葺民家が残っており、長辺に入口のある平入りで、均整のとれた屋根の高さと勾配、妻側の小さな破風、カラスと呼ばれる棟飾りを兼ねた棟押さえに特徴がある。

農地は区画が整理され、棚田の風景は残されていないが、地区内に点在する茅葺民家が農地の起伏の間に見え隠れする様子は昔ながらの風景を思わせる。



写真 30 茅葺き屋根とゆるい傾斜のほ場

【河川沿いの谷に広がる栽培風景】

下流に少しずつ下るに従い、河川沿いに広がる比較的広いほ場での栽培の様子が見られる。ここにも、収穫時期には、倒れる直前まで登熟させた山田錦の風景が広がる。



写真 31 様々な場所で見られる収穫前の山田錦の風景
(三木市、加東市、多可町、小野市)

【多様な動植物が生息し、有志により保護活動が行われるため池(三木市増田)】

平成13年(2001)に開園した「増田ふるさと公園」は、希少な動植物を保全し、子どもたちの自然観察や環境学習に役立てられている。元々、農地、ため池、雑木林が広がり、貴重な野草や小動物が暮らす典型的な里山であった現在の公園を含む区域では場整備が計画された際、三木自然愛好研究会が増田地区と三木市、その他関係機関に対して貴重な自然を保存するよう働きかけた。その結果、三木市が約0.7ヘクタールの用地を買い上げ、公園として保全することになった。



写真 32 増田ふるさと公園

園内の「かご池」は、総貯水量は 1,000m³程度の小さな池であり、地域住民が周辺の田畑の耕作に使っているため池であるが、ほかの山間部のため池と同様、東播用水事業による用水が接続されておらず、水系は昔のままであり、生態系が保たれていることから多様な動植物が生息しており、三木自然愛好研究会（IV 2 (2) ②に詳述）が熱心に保護活動に取り組んでいる。

公園には小さな花や虫や魚たちが生息する。夏には水たまりにトチカガミやガガブタの花が咲き、メダカやカワバタモロコの泳ぎ回る姿が見え、秋には沿道にキキョウやフジバカマなどの七草が咲く。また、公園に生息する動植物、植物53種、両生類3種、魚類2種、水生昆虫1種、鳥類1種の合計60種類、このうち絶滅危惧種は植物18種、両生類3種、魚類2種、水生昆虫1種、鳥類1種の合計25種類を紹介する看板が整備されている。

公園では、草刈りの回数を変えた部分を作ることで、多様性にどのような違いが出るかを来園者が理解できるような取組も行っている。